

管きょ調査

管きょ調査について

管きょの大半は地中に埋設されていることが多く、通常では管きょ内の状況を知ることが出来ません。

そこで当社はTVカメラ車等を用い、管きょが正常に機能しているか、また問題箇所を早期に発見する為のお手伝いをさせて頂いております。

特に、下水道は日本での総延長が47万キロ（平成27年度末）を超え、その多くは道路の下に埋設されているため振動や加重、内部は場所によって硫化水素等の発生する厳しい条件の中、毎日私たちの生活を支えております。

当社はこの下水道の調査を中心にお手伝いをさせて頂いております。

管きょ調査（下水道）の目的

管きょ、特に下水道管は加重や地盤変化、振動、地震等の災害、硫化水素による劣化や突発的な外的影響により破損したりします。

このような状況になった場合、これを放置しておくとう道路の陥没による交通事故や地中の汚染に繋がる恐れがあるほか、下水道が本来の排水機能を果たさなくなると日常の私たちの生活や産業から排出される排水が行き場を無くしてしまう事態にまで発展する恐れがあります。

下水道は水道と同じくライフラインのひとつとして位置づけられており、上記の問題が起きないように多くの都道府県や自治体は定期的な維持管理のひとつとして定期的な下水道の調査を実施しております。

また、この調査を元に様々な改善や修繕を行い、未然に事故等が発生しないように管理されています。

管きょ内調査

TVカメラ調査

管きょの直径が 150～500、250～2000 mmについて 2 種類の自走式カメラを用いて調査いたします。(800 mm以上では下記で説明する潜行目視調査もあります。)

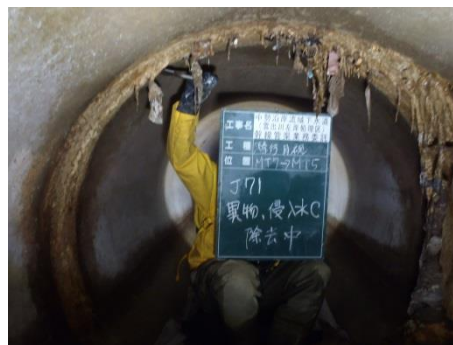
TVカメラ調査は管きょ内の進行方向を見ることができる他、側面の状態をより詳細に調査することが可能で、管内部の劣化（老朽度）や破損、それらの度合い、地下水の下水道管内への流入を調査する方法です。



潜行目視調査

管きょの直径が 800 mm以上の場合、調査員が管きょの内部に入り直接目視にて管きょの状態を調査します。

管内の流下能力を低下させるモルタルなどの除去作業などもさせて頂いております。



人孔（マンホール）調査

マンホール内部から管きよに堆積している砂等の量や、マンホール自体の劣化（老朽度）や破損、それらの度合いの状態を目視で調査します。



取付管カメラ調査

80（屈曲管を除く）～200 mmの小口径管きよを調査するときに使用します。主には各家庭等から下水道本管までの繋ぎとなっている管きよ内を調査するときに使用します。

